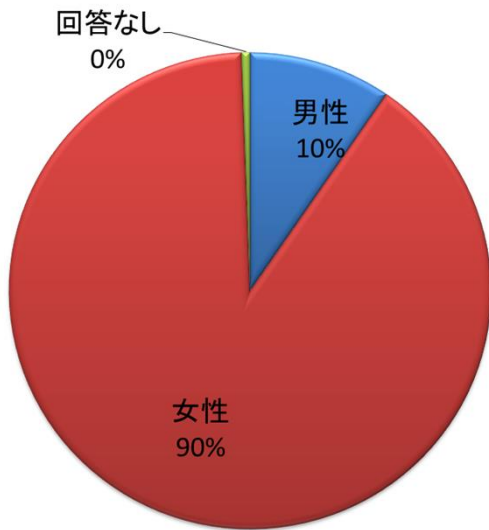


学校給食費無料化アンケート集計結果

教育総務課

- 1 実施日 : 平成25年7月5日
- 2 対象者 : 5,203名(市内小中学校保護者)
- 3 集計枚数 : 3,762枚
- 4 回収率 : 72.3%
- 5 集計結果 : 下記のとおり

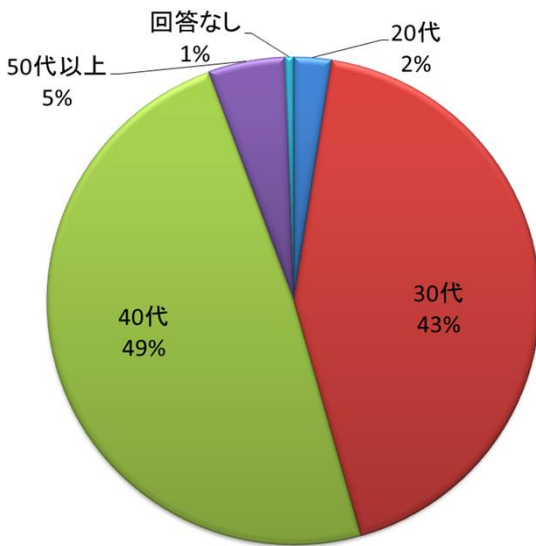
【問1】回答者の性別



(単位:人)

男性	360/3,762
女性	3,381/3,762
回答なし	21/3,762

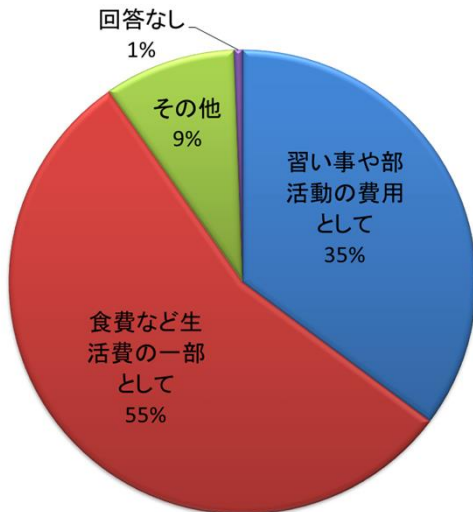
【問2】回答者の年代



(単位:人)

20代	93/3,762
30代	1,623/3,762
40代	1,836/3,762
50代以上	189/3,762
回答なし	21/3,762

【問3】学校給食費に充てていたお金の使い道



(単位:人)
複数回答可

習い事や部活動の費用として	1,333
食費など生活費の一部として	2,156
その他	344
回答なし	22

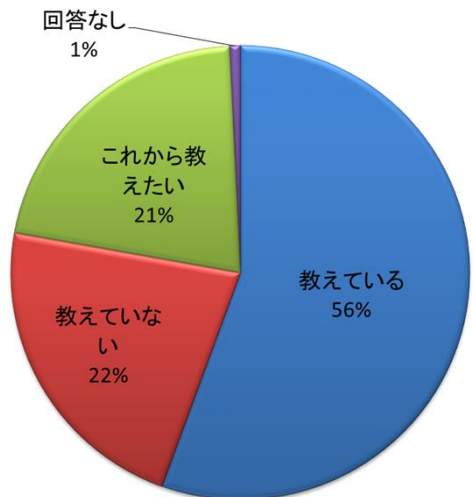
●その他の内訳 (抜粋)

貯金	49人
不明	26人
税金	4人
小学1年生のためわからない	2人

●問3のまとめ

保護者がこれまで給食費として支払っていたお金は、生活費として使用しているとの回答が5割以上を占めており、そのほとんどが子どものために有効に使われているということが問3の回答からわかる。習い事や部活動、高校・大学進学のための貯金など、子どもへの教育や将来の備えとしているとの回答も多くあった。中には、子どもを塾に通わせることができるようになったという回答もあり、児童生徒の教育を受ける機会を増加させたということができる。

【問4】子どもに学校給食費が無料であることを教えているか。



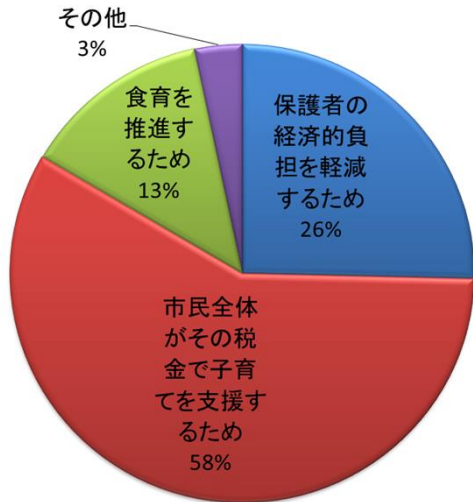
(単位:人)

教えている	2,090 / 3,762
教えていない	838 / 3,762
これから教えたい	806 / 3,762
回答なし	28 / 3,762

●問4のまとめ

子どもに対して給食費が無料であることを教えたい、又はこれから教えたいと考えている保護者が全体の約8割に上り、給食に関心を持ち、親子で話し合いの場を設けている家庭が多くあることがわかった。

【問5】無料化した理由をどのように説明しているか。またはどのように説明したいか。



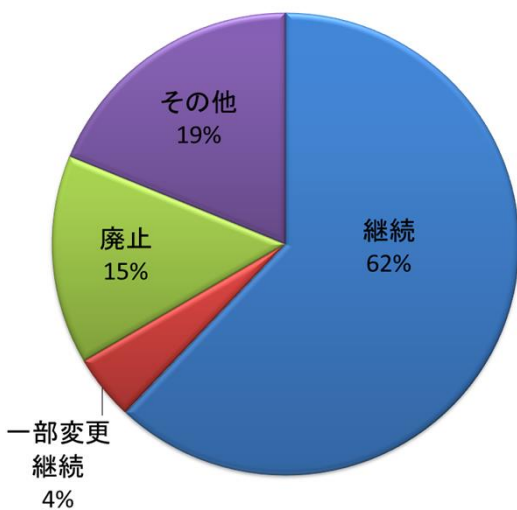
(単位:人)
複数回答可

保護者の経済的負担を軽減するため	941
市民全体がその税金で子育てを支援するため	2,156
食育を推進するため	490
その他	123

- その他の内訳（抜粋）
理由は説明していない。 5人
市長の公約だから。 13人
給食費を払わない人がいるため 7人

- 問5のまとめ
給食費が無料になった理由について、「市民全体で子育てを支援するため」と教えている又は教えたいと考える保護者は6割近くとなり、給食費の無料化が、子どもたちに納税の大切さや地域住民への感謝の心を教育するきっかけとなっていることがうかがえる。

【自由意見】



(単位:人)

継続	462/745
一部変更継続	34/745
廃止	109/745
その他	140/745

自由意見記入枚数／集計枚数
=自由意見記入率
745／3,762 =20%

※自由意見は別紙のとおり

●自由意見における質問への回答

Q 給食費が無料になったことでおかずが減り、冷凍やレトルト食品の使用が多くなったように感じる。給食の質を低下させないでほしい。また、パンとスパゲッティなど、炭水化物を2種類出すような献立はできるだけ避けてもらえないか。

A 冷凍食品等は無料化の前後で使用回数に変化はありません。無料化するまで保護者が支払っていた給食費と同じ金額を市が負担しており、給食の質を下げるという心配はありませんので、ご安心ください。炭水化物を一度に2種類出す場合もありますが、パンと麺類等を組み合わせることにより、児童生徒の年齢に応じたエネルギー等を満たすよう献立を作成しておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

Q 給食費負担の公平性を保つためにも、有料だった頃の給食費未納者への対応（徴収など）をきちんとしてほしい。

A 無料化した後も給食費未納者への対応として、学校長等が督促・徴収を実施しています。また、教育委員会においても督促を行っており、今後も引き続き実施してまいります。

Q 給食費無料化に伴って、削減された事業を教えてください。

A 特定の事業を中止して給食費を無料化したものではありません。市が行う全ての事業において経費等を節減することにより実施しています。

Q 使用している米や野菜等の生産地をお知らせいただきたい。

A 米は黒羽地区で生産されたものを使用しています。野菜は、各学校の近くの農家や直売所で直接購入するなど、季節の野菜はできる限り地場産品を使用するよう、各学校で取り組んでいます。

●全体のまとめ

保護者がこれまで給食費として支払っていたお金は、生活費として使用しているとの回答が5割以上を占めており、そのほとんどが子どものために有効に使われているということが問3の回答からわかりました。習い事や部活動、高校・大学進学のための貯金等、子どもへの教育や将来の備えとしているとの回答も多くなりました。中には、子どもを塾に通わせることができるようになったという回答もあり、児童生徒の教育を受ける機会を増加させたということが出来ます。

問4では、子どもに給食費が無料であることを教えている又は教えたいと考えている保護者が全体の約8割にのぼり、親子で話し合いの場を設けている家庭が多くあることがわかりました。また、無料化の理由について、「市民全体がその税金で子育てを支援するため」と子どもに教えている又は教えたいと考える保護者は6割近くであり、給食費の無料化が納税の大切さや、地域住民への感謝の心を教育するきっかけになっていることがわかりました。

自由意見の中には、保護者の経済的負担が軽減され市民全体で支えてもらっていることに感謝し、無料化の継続を望む保護者が多数いる一方、無料化に感謝しながらも給食費の一部または全額を親が負担し、市は他の事業を優先して充実させるべきであるとの意見もありました。このことから、多くの保護者が給食無料化に関心を持ち、子どもたちや子育て世代、高齢者まですべての市民がより充実した生活を送るにはどうしたらよいかを深く考えていることがわかりました。調査結果を踏まえ、学校給食サービス事業費等補助金に関して周知を図り、教育環境をより一層充実させるための取組を行ってまいります。